

単元指導計画（全体時間 6 時間）

《目標》

- ・日頃学んでいる園芸に関する知識や技術を活用して、児童に園芸指導ができる。
- ・児童に指導することにより、園芸に関する知識や技術の深化を図ることができる。
- ・異年齢である児童と楽しく交流することができ、しかも、園芸技術が地域社会で役立つ技術であることを自覚できる。
- ・TV会議システムを活用して、遠隔地の児童と園芸交流ができる。

《計画》

- 第1次 井原小学校2年生との園芸交流
ペチュニア・マリーゴールドの植え付け指導など
- 第2次 中川小学校に出向いて、園芸交流（多地点接続）
ペチュニアの植え方、管理方法の指導
- 第3次 園芸交流（多地点接続）
ペチュニアの生育状況の情報交換、ペチュニアについての質疑
- 第4次 井原小学校2年生との園芸交流
パンジーの植え付け指導、サツマイモの会食など
- 第5次 園芸交流（多地点接続）
ペチュニア栽培のまとめ的信息交換、ペチュニア
についての質疑、ペチュニアについての ×クイズ
- 第6次 園芸交流（井原小学校、中川小学校児童対象）
精研高校・農場見学の指導
（第6次当日の昼には、井原小学校児童と給食を共にする。）

本時の目標と展開（本時はその5時間目）平成11年11月19日実施
（精研高校、中川小学校、十日町小学校を多地点接続）草花専攻生12名

- ・質疑や ×クイズを通じて、TV会議システムを活用した園芸交流に参加し、積極的に説明や発言ができる。
- ・井原小学校児童が来校し、オフライン交流を深めることができる。

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
(1) 始まりの会のあいさつをする。また、あいさつを聞く。 (2) 各小学校の栽培や交流の報告を聞く。 (3) 児童の質問を聞き、質問に答える。 (4) ペチュニア ×クイズを行う。 (5) 高校生から「まとめ」の発言をする。 (6) 終わりのあいさつをする。また、あいさつを聞く。 (7) 次時の予告を聞く。	交流できてうれしいという事が児童に分かるようなあいさつになるようにさせる。 交流や指導した中で、どんな点が児童に喜ばれたかという事に留意させる。 専門用語を使わず、また、実物や写真等を活用して、児童に分かりやすい説明をさせる。 今まで交流・指導した中から児童に発問し、児童とペチュニアを通して交流がさらに深まるようにさせる。 きょうまでの交流の思い出などや3学期の交流の予告をさせる。 精研高校の農場に来てくれるのを楽しみにしていることを伝えるようにさせる。	井原小学校児童とグループごとに着席 必要により、指導者が補足をする。

平成11年度協同実践者 井原小学校・山部英之、岡本真由美、鳥越和夫 中川小学校・井上博夫、藤井優作 十日町小学校・小林圭介 精研高校・三宅道治 / 執筆者・三宅道治